

真の心の救済を得ることが大切

普泉寺住職 小山 貴大

修証義第三章第十二節

若し薄福少徳（はくふくしょうとく）の衆生（しゅじょう）は三宝の名字（みょうじ）猶お聞き奉らざるなり、何（いか）に況（いわん）や帰依し奉ることを得んや、徒（いたづら）に所逼（しよひつ）を怖れて山神鬼神等に帰依し、或は外道の制多（せいた）に帰依すること勿れ。

彼は其（その）帰依に因りて衆苦（しゅく）を解脱すること無し、早く仏法僧の三宝に帰依し奉りて、衆苦を解脱（げだつ）するのみに非ず菩提を成就（じようじゆ）すべし。

現代語訳

幸福に恵まれず、善行を積み重ねて得られる力に恵まれな

いは者は三宝の名前を聞くことすらない。ましてや、三宝に帰依することなど出来はしない。いたずらに根拠のない見えない力が襲ってくることを恐れて怪しげな幽霊などを信じて帰依し、あるいはおかしい集団に帰依してはならない。

そのようなものに帰依するものはその帰依信仰によつてもろもろの多くの苦悩を解脱することはない。早く仏法僧の三宝に帰依し信じ、もろもろの多くの苦悩を解脱するだけでなく正しい悟りに目覚めるべきである。